

本学術会議 in 山口 開催報告

山口大学大学院創成科学研究科 荊木康臣

日時： 2020年9月27日（日）12:50～15:45（第一部公開講演会）、
16:05～18:30（第二部幹事会懇談会）

開催方法：第一部はオンライン配信、第二部はオンライン会議

第4回の地方学術会議は「日本学術会議 in 山口」として山口県での開催となりました。当初は、3月に山口大学吉田キャンパス（山口市）で開催する予定でしたが、COVID-19の感染拡大防止の観点から延期となり、2020年9月27日に、ご参加頂く方々の安心・安全を第一に考え、オンライン（山口大学吉田キャンパスよりオンライン配信）にて開催しました。「日本学術会議 in 山口」は二部構成で、第一部では「AI戦略の地方への展開—大学におけるデータサイエンス教育と地域連携」というテーマでオンライン公開講演会が、第二部では、地方との対話の場として、幹事会懇談会（非公開）が同じくオンラインで行われました。第24期中の開催に向け、日程を決定してから実施までの時間的余裕があまりなかったにも関わらず、多くの皆様にご参加頂き、盛況のうちに終わることができました。ここで、ご協力頂きました皆様に深く感謝申し上げます。以下に全体の概要を示します。

第一部

第一部では、山極壽一日本学術会議会長挨拶、岡正朗山口大学長挨拶に続いて、荊木より、講演会の開催趣旨の説明させて頂きました。続いて、政府のAI戦略の概要を、内閣府において科学技術・イノベーション政策をご担当されている佐藤文一内閣府大臣官房審議官からご紹介いただきました。AI戦略策定の経緯から、AI戦略2019における3つの理念（人間尊重、多様性、持続可能）とその理念を実現するための4つの戦略目標（人材、産業競争力、技術体系、国際）、および目標の達成に向けた「未来への基盤作り」、「産業・社会の基盤作り」、「倫理」に関する取組について説明がありました。特に、教育、研究、社会実装に関して、具体的な取り組み例を示され、Society 5.0を実現しSDGsに貢献するためのAI活用の必要性を理解することができました。そして次に、AI戦略の地方への展開において核となる大学でのデータサイエンス教育と地域連携の例として、山口大学での取り組みが、松野浩嗣山口大学理事・副学長より紹介されました。山口大学では、理系・文系問わず、すべての学部で、データサイエンス技術の基礎を学ぶと同時に、学部毎の到達目標レベルを明確にした教育カリキュラムを策定し、実施し始めていること、さらに、山口県との共同によるデータサイエンス講座の開講や、データサイエンス系企業集積の核としての機能が期待される山口市産業交流拠点施設などが紹介されました。

休憩の後は、地方でのAIの活用が期待される、医療、防災、農業分野における最新の研究や取り組みをご紹介頂きました。まず、浅井義之山口大学大学院医学系研究科教授より、「AI医学研究教育」というタイトルで、医療分野における課題解決に向けたAI支援によるスマート医療の方向性、およびそれを推進する教育体制について、AISMEC（AIシステム医学医療研究教育センター）での取り組みが紹介されました。次に、長井正彦山口大学大学院創成科学研究科教授により、「AI

(データサイエンス技術)の防災への活用」というタイトルで、多様かつ膨大なリモートセンシングデータを防災研究に役立てるためのデータサイエンス技術の必要性とその事例について、山口大学応用衛星リモートセンシング研究センターでの取り組みが紹介されました。そして、最後の講演では、「AIを活用した農業」について、仁科弘重愛媛大学理事・副学長（日本学術会議第二部会員）よりその概要が、高山弘太郎愛媛大学教授・豊橋技術科学大学教授（日本学術会議連携会員）により、具体的な事例の説明がありました。植物と対話し環境を制御する Speaking plant approach の概念、およびその実現に向けた植物センシング技術と AI 連携に関する事例および将来への方向性が紹介されました。

今回の講演会における質疑応答は、リモート会議アプリケーションの Q&A 機能を利用して、オンライン参加者からの質問をテキストで受け付け、司会者が講演者に質問するという形で実施しましたが、各講演に多くの質問が寄せられ、予定よりも終了時間が少々延長となるほど活発な議論がなされました。最後は、日本学術会議中国・四国地区会議代表幹事である神谷研二広島大学副学長の閉会の挨拶で締めくくられました。初めてのオンラインでの公開講演会ということもあり、運営上の不安もありましたが、県内の多くの自治体からのご後援のおかげもあり、配信会場での参加者を含め約 200 名の方々にご参加いただき、盛況に終えることができました。

今後は、さまざまな分野で AI の活用が一層進むと思われます。特に、コロナ渦により人との接触が制限されるなかで、AI の基盤となる情報技術の進展・普及や、日常生活におけるデジタル化の波が押し寄せ、大きな社会の変革につながる可能性があります。本講演会が一つの契機となり、AI を活用した豊かで持続可能な社会の構築に向けて、大学が教育や研究においてどのような貢献ができるか、また地域とどのように連携していくべきかを考え、実践していく動きがさらに広がることを期待しています。

第二部

第二部幹事会懇談会は、日本学術会議事務局がホストとなりオンラインで開催しました。幹事会のメンバーに加え、中国・四国地区会議運営協議会メンバー、山口大学の学長・理事・部局長ら 44 名が参加しました。山極会長の挨拶、参加者の自己紹介の後、渡辺美代子副会長・地方学術会議委員会委員長より、地方学術会議の位置付けについて、過去の地方学術会議の概要とともに説明がなされました。その後、まず「With コロナ, After コロナの地方創生について」というテーマについて、渡辺副会長より、COVID-19 に関わる日本学術会議の取組みとして、感染症に関する 2 つの提言、学術フォーラムでの after コロナの世界に関する議論、および、9 月に公開された「未来からの問い—日本学術会議 100 年を構想する」の内容などが紹介されました。また、岡山山口大学長から山口大学の取組みが紹介された後、コロナ渦での講義の実施法や学生への支援、さらには、大学附属病院での問題点などが議論されました。つづいて、「Society5.0 の実現に向けて」というテーマで、第一部の講演者であった松野山口大学理事・副学長、および佐藤内閣府大臣官房審議官より、それぞれ、「山口の視点」、「国の視点」での話題提供があり、活発な意見交換とともに、非常に内容の濃い議論が展開されました。

最後になりますが、山口県における 24 期の会員は不在、連携会員 3 名のみという体制ながらも、今回の地方学術会議を開催できたのは、渡辺地方学術会議委員会委員長をはじめ、日本

学術会議事務局、中国・四国地区会議運営協議会、山口大学研究推進機構の皆様のご協力の賜物です。ここに改めて御礼申し上げます。



第一部公開講演会配信会場の様子（岡山口大学長挨拶）

トピックス

1. 植物工場の現状と展望
2. 実装される高精度生体情報計測技術
 - ① 光合成計測チャンバによる植物診断
 - ② 画像計測ロボットによる植物診断
3. 高精度植物生体情報と働き方改革

第一部公開講演会配信画面



第二部幹事会懇談会の様子（岡山口大学長と山極日本学術会議会長）